

公共施設の評価結果一覧

調書 番号	施設名	担当課	1次評価		アドバイザー評価			2次評価	
			見直し 必要性	説 明	評価 者	評価 区分	説 明	見直し 必要性	説 明
33	介護実 習普及セ ンター	長寿社 会課	有	活動量、成果ともに目標を達成している。 引き続き介護需要の増加やニーズの変化に対応するため、受講者や利用者のニーズ等を反映させたカリキュラムや展示、相談、助言方法の見直しを行っていく必要がある。	A	要改善	指定管理者制度に移行して以降、利用者増の成果が認められるところである。これは指定管理者の努力の賜物であると理解している。同時に、公の施設は、多くの方に利用していただくサービス施設であるとともに、政策上の課題を遂行するための現場組織でもある。この点に格段の留意が必要である。指定管理者は、そのミッションの一つとして利用者の増大を追求しなければならない。そのために創意工夫を凝らした集客戦略を採用する必要がある。しかし、その一方で、在宅介護の必要な人たちが増え、なかでも認知症などは重大な社会的問題になっていくことはかなり確実である。こうした社会問題への政策対応を現場で実行するミッションも担っている。その観点からみると、人気取りの事業だけでなく、他の市町村や民間ではできないような政策的に特徴のある将来を見据えた事業展開を行う必要がある。以上のことから、要改善とするのが適当である。	有	介護需要の増加やニーズの変化に対応するため、カリキュラムや展示、相談、助言方法の見直しを行っていく。 また、今後指定管理の更新に際しては、認知症など喫緊の課題に対応するため市町村や民間では行えないような事業を検討していく。
					B	要改善	カリキュラムにおいて、定員に対する受講率が低いものがある。逆に定員を超えているものもある。県民のニーズにあった講座の設定を行い、事業の充実を図って頂きたい。あわせて、活動指標、成果指標をみても目標の設定が、事業を推進していく意欲的な目標設定になっていないので、昨年の実績を上回る、より積極的な目標設定をする必要がある。		
					C	要改善	高齢化社会において、介護実習事業の重要性は更に増すのではないかとと思われる。そのなかで、ニーズにあった講座を展開して、よりきめ細かなサービスを行う必要がある。		

調書 番号	施設名	担当課	1次評価		アドバイザー評価			2次評価	
			見直し 必要性	説 明	評価 者	評価 区分	説 明	見直し 必要性	説 明
34	森林公園 金川の森	県有林 課	無	利用者満足度の向上や県内外からの新たな利用者層の開拓を進めるため、森林や昆虫などに接することができる環境の整備や飲食スペースの設置、老朽化した遊具の更新や駐車場の拡張など、公園施設の再整備に取り組んでいる。こうした整備と併せ、指定管理による民間のノウハウを活用した施設運営のさらなる充実に努めるとともに、魅力ある講座やイベントの開催や、地域やボランティアとの協働・連携の促進など、新たに設定した年間利用者数目標35万人(平成30年)の達成に向けた取り組みを積極的に推進していく予定である。	A	現行 どおり	金川の森は中央道一宮御坂インターチェンジに近く、山梨の玄関口に位置しており、県外への情報発信地としても重要である。一方、河川と森林をベースとした特徴ある森林公園は、自然とのふれあいや環境を重視する時代のニーズに合致している。県外からの集客などを考えるに際しても、現在の自然環境を活かすというコンセプトを大切に、必要以上に都市的施設の整備や利便性の向上を図ることのないよう、現状どおりの運営とすることを考えてほしい。よって、現状どおりとするのが適当であると考え。	無	ボランティアと連携した地域密着型の公園運営や、再整備への取り組みなどにより、県民等の”心身の健康増進”や”森林や自然環境保全意識の高揚”という当公園管理事業の目的達成に成果を上げていることから、現行どおり本事業を継続する。
					B	現行 どおり	公園の運営において、公園巡視員などボランティアの協力が大きな特長である。今後ともボランティアとの連携を密にし、サポーターのさらなる増加など、運営の効率化を図ってもらいたい。 また、再整備した施設を活かし、遠足などによる県内外の小中学校の利用者をさらに増やす取り組みなども考えてみてはどうか。		
					C	現行 どおり	現地調査で、地元密着型の公園だと感じた。この公園を利用した多くの県民の中でも公園の端から端まで全てを活用したところのある人は少ないのではないかとと思われる。県外利用者の増加だけでなく、県内利用者の増加にも力を入れてほしい。 また、県外からの利用者にとっては、ただ、利用者数を増加することにどまらず、まず、当公園に立ち寄り、ここから県内の観光地に行けるようなハブとなる公園を目指してほしい。		

調書 番号	施設名	担当課	1次評価		アドバイザー評価			2次評価	
			見直し 必要性	説 明	評価 者	評価 区分	説 明	見直し 必要性	説 明
35	富士湧水の里水族館	花き農水産課	有	指定管理者制度の導入により効率的な運営が行われ、事業成果をほぼ上げているが、平成23年度の利用者満足度調査結果からはイベント、シアターなどの設備、職員の対応に対して不満を感じているとの意見も見られ、これらに対応する必要がある。実際、シアターなどの設備は一部に故障があるため、利用者の利便性を低下させないために修繕する必要がある。一方、イベントの企画運営、職員の対応は、利用者満足度調査結果の職員へのフィードバックの徹底、県民等の関心の高い淡水魚の展示など、利用者満足度を高める取組みを行うとともに、イベント内容の充実、近隣施設等との連携など集客対策を実施し、入館者の増加につなげていく必要がある。	A	要改善	指定管理者制度を導入することで、集客やコスト効率で大きな改善が図られているので、効果はあがっていると考えられる。しかし、施設の持つコンテンツを様々な角度で、観光や教育などの面から効率的に活用していくために、一般の入館者の増加に向け、様々な取組を行う努力が必要である。また、教育面から考えると、施設の目的は魚を通じて山梨の自然環境を理解してもらうことであるから、教材としての効果も大きく、特に一般利用者の減少する冬季などに小中学校等の団体利用を誘致するなど、教育施設としての利用増加を目指すべきである。それに関連して、映像コンテンツの利用の問題も迅速な決定が必要な課題である。シアターの故障についてはあらかじめ設置主体としての県の負うべき責任領域の問題である。シアターとして継続するのか、それとも廃止するのかの意思決定を迅速に行うべきである。継続するのであれば、機器の更新に要する経費はかかるが、映像コンテンツの更新(教育面で効果が上がるような教材映像など)も含め、明確な投資ビジョンを示して意思決定すべきである。また、リピーターの獲得にもつながるミュージアムショップ等は必要であると思う。防衛施設庁との協議・交渉を含めて、関連部署で横断的に検討すべきである。以上のことから、要改善とするのが適当である。	有	水族館が観光や教育など多方面から効率的に活用されるよう、県内外へのPR、魅力あるイベントの充実等に取り組む、入館者の増加と満足度の向上に努める。また、教材としての効果も大きいことから、小中学校等団体利用のさらなる増加を目指すとともに、リピーター獲得や冬季など閑散期の集客等についても検討していく。 故障中の施設・設備については、利用者の利便性を向上するために、そのあり方について検討していく。 また、来館の記念品の購入等を利用者が望んでいるため、物品の販売や飲食の提供ができるよう関係機関と協議していく。
					B	要改善	観光・学習拠点として県内外にPRし、老朽化施設の整備(シアターは故障)を図り利用者の増加と満足度向上に努めて欲しい。 また、来館者のニーズがある飲食関連スペースの確保、土産品の販売等が可能となるよう関係先への要望を継続して頂きたい。		
					C	要改善	まず、生きた魚を通じ学習できる貴重な場なので、県内の小中学校の児童生徒の利用増加に、なお一層努めて欲しい。また、シアターについては、故障を放置すると、県外の利用者からは「地方の施設だから」というような印象を与え、イメージダウンにつながりかねないので、施設のパフォーマンスを十分活かせるように修繕すべきところは修繕すべきであるとする。また、空間的な制約があることは承知しているが、その中で更なる魅力あるイベントの充実に取り組んで頂きたい。加えていろいろな制約の中で、難しくも物品販売、飲食などについても推進、検討して頂きたい。たとえば、甲斐サーモンなど、県産生産物が食べられれば、内水面漁業振興にもなると思われる。		